Letter to the Editor

「第 33 回 BMS コンファレンス」開催報告**Report of “The 33rd Biological Mass Spectrometry Conference”**荒川隆一^{1, 2}Ryuichi ARAKAWA^{1, 2}¹ 第 33 回 BMS コンファレンス実行委員長 *Chair of The 33rd Biological Mass Spectrometry Conference*² 関西大学工学部応用化学科 *Department of Applied Chemistry, Kansai University, Suita, OSAKA, JAPAN*

編集長殿、ならびに会員諸氏

ここに第 33 回 BMS (Biological Mass Spectrometry) コンファレンスの特集号を出版することができて、実行委員一同たいへん喜んでおります。本大会は 2006 年 7 月 2 日から 5 日までの 4 日間、琵琶湖の畔の天津プリンスホテルで約 300 名の参加者を得て開催されました。多くのご参加をいただき、主催者として心から感謝いたしております。今回のテーマは「MS の叡智、叡知、英知」です。会場が比叡山の麓に位置するので、“叡”に由来する文字を三つ並べると知恵がたくさん湧き出てくることを願って決めました。

基調講演は滋賀県立琵琶湖博物館の川那部浩哉館長にお願いしました。先生は「ものとことの生態学—関係の総体として見た琵琶湖の現状と将来」の演題でご講演いただきました。琵琶湖は我々日本人の生活環境を示す指標で、琵琶湖の自然を科学することは日本の過去・現在・未来の生活様式を理解するうえで重要であることを教えていただきました。

2 日目の特別講演は「環境分析におけるマスマススペクトロメトリー」の演題で中部大学の鈴木 茂先生にご講演いただきました。わが国の環境分析の現状とその原動力となった化学物質環境調査についての説明、および有機汚染物質の包括分析システムについて先生の最近の研究成果をお話いただきました。

さらにイブニングレクチャーにおいて、京都工芸繊維大学の山岡亮平先生による「GC-MS で観たアリのマイクロコスモス—動植物界で情報として重要な役割を果たす体表炭化水素組成とは？」のご講演がありました。アリの体表にある炭化水素組成がアリの個体識別のバーコードの役割をもつという興味ある成果をお話されました。また、テレビで放映されたアリのサッカーのビデオを鑑賞することができ、全日本のユニフォームを着たチームが優勝したのは驚きました。山岡先生に人間の体表炭化水素を見つけてもらって、日本のサッカーチームの強化を図って欲しいと思います。

今大会の特徴として、9 件の若手による公募発表が行われました。これは、日本質量分析学会の BMS 研究会が、質量分析の若手研究者の育成・奨励を目的とし、第 54 回アメリカ質量分析学会本大会 (American Society for Mass Spectrometry Conference, シアトル) および第 17 回国際質量分析学会 (International Mass Spectrometry Conference, プラハ) で研究発表を行う学生および若手研究者の渡航費用を補助するトラベルアワードを設け、その応募者の方々の発表でした。その内容の質・量ともに十分で、プレゼンテーションも優れていました。どの先生方も質量分析学会にこんなに多くの優秀な若手が居るとは思いもよらなかったと驚いた様子でした。

朝 8:40 から夜 9:00 までの長い講演時間にもかかわらず、多くの出席者が招待講演以外にも、基礎講座、協賛企業のテクニカルレポート、応用講座を受講されていたことは、実行委員にとってうれしいことであり企画の良さが認められたと喜んでおります。特に、気がついたことは、10 名ほどの社長と名のつく人が講義を受けておられました。このような学会は BMS コンファレンス以外では考えられないと思います。

エクスカージョンには、今回のテーマの源になった比叡山に日本一長いケーブルカーに乗って登りました。最澄が開山した延暦寺の神秘的で厳かな雰囲気を体験でき、また幸いにも当日は天候にも恵まれ、山頂からの眺望も格別だったと好評でした。また、別のコースとして、基調講演をいただいた川那部先生が館長を務めておられる滋賀県立琵琶湖博物館を訪れるツアーも企画されました。参加者からは、興味深い展示が多く、鑑賞時間が足りなかったとのご意見をいただきました。

BMS2006
第33回 BMS コンファレンス
2006年7月2日～5日 滋賀県大津市
The 33rd Biological Mass Spectrometry Conference
July 2-5, 2006, Otsu, Shiga
テーマ「MSの叡智、叡知、英知」

主催：日本質量分析学会
会期：2006年7月2日（日）～5日（水）
場所：大津プリンスホテル（大津市におの浜4-7-7、TEL：077-521-1111）
参加費：日本質量分析学会員 48,000円、非会員 58,000円、学生 38,000円
（上記金額には、宿泊費、要旨集代、および懇親会費を含む）
募集人数：300名
参加登録：2006年4月上旬より日本質量分析学会ウェブページ（<http://www.mssj.jp>）にて受付開始予定
実行委員長：荒川隆一（関西大学工学部）
連絡先（事務局）：溝奥康夫（株式会社住化分析センター医薬事業部）
〒554-0022 大阪市此花区春日出中3-1-135
TEL:06-6466-5245, FAX:06-6466-5479, E-mail:bms33_sec@mssj.jp

図1. BMS お好み焼きポスター

写真1. 会場の下見ツアー（永源寺）

写真2. 受付風景

た、限られた時間内でのエクスカージョンであったことが残念です。

実行委員には、大阪、京都、兵庫、奈良の方々にお願ひしました。これら関西中心の若い実行委員の方々の実行力と緊密なネットワークのおかげで、大きなトラブルもなく企画、会場の設営・運営を進行することができ、この紙面を借りて心から感謝申し上げます。

写真3. BMS 参加者の記念写真

図1は今回のBMSコンファレンスのポスターで、関西らしくお好み焼きの図案を前面に出しました。若い出席者の皆さんには好評でした。

2004年10月16日(土)に13名のツアーを組んで大津プリンスホテルに会場の下見に行きました。ホテルの最上階のレストランからの見晴らしのすばらしさに圧倒されて、皆さん会場を決定したことを思い出しました。そのあと、もみじで有名な永源寺にドライブを楽しみがてらBMS準備の作戦を立てました(写真1)。

写真2は受付の風景です。アルバイトの学生さんには、夜遅くまで仕事をさせて申し訳ありませんでした。懇親会が始まる前に参加者全員の記念写真を志田先生(東京薬科大学)に撮っていただきました(写真3)。

最後にもう一度、講演者、協賛企業、学生アルバイト、実行委員の皆様にお礼を申し上げます。また、大津プリンスホテルの関係者の皆様には長い間にわたってご無理を聞いていただいて感謝しています。今後、MSのユーザーが増えてBMSコンファレンスがマスマス盛んになることを願っています。